

再稼働を許すな！2. 11さようなら原発 1000万人アクション全国一斉行動 in 東京の報告

東日本大震災から11か月の2月11日、私たちは狛江駅12時半集合で、代々木公園に向かいました。集会参加者は約12,000人。非常に寒い中でしたが、会場は熱気に包まれていました。呼びかけ人の大江健三郎さん、澤地久枝さん、落合恵子さんの他、福島から、永山信義さん（福島県平和フォーラム）、増子理香さん（つながろう！放射能から避難したママネット@東京）、菅野正寿さん（福島県有機農業ネットワーク）からの訴え、さらに、俳優の山本太郎さん、タレントの藤波心さんが発言をしました。集会後は明治公園と新宿の2コースに分かれて都内をパレードしました。

大江健三郎さん

「原発をやめることが、子どもたちへの希望の証になる。もし私たちに希望があるとしたら、いま原発はとめたままだが、再稼働を行おうとすることに抵抗が起こっていることである。ドイツでは核廃棄を決めた。日本では再稼働への動きに私たちは抵抗しなければならない。去年の集会で福島の被災者の代表の方が私たちは今静かに怒りを燃やす鬼です、と言われたが、あの声を私たちの声として生かしてゆくことが私の願いです」と結びました。



澤地久枝さん

人びとの関心が薄れているのではないかと心配しながら、1000万人署名をもっと拡げてほしいと訴えました。「人間を信じなくなってしまった犬や猫。すべて命あるものに対して、私たちは責任がある。原発をとめるのは私たち。今日のような寒さをおして皆さんが参加しているのは意義があるのだ」と力強く発言しました。



落合恵子さん

「私たちの声は必ず届く。命が、人権が大切にされる社会、幸せにつながる社会をめざして、次のまた次の、次の世代に向けて胸が張れるように歩み続けよう。私たちが抱えてしまった原発的体質を変えるため、脱原発に向かって、諦めずに歩み続けよう。我々は少数派であっても恐れな、何時だって時代と社会を切り拓いてきたのは少数派なのだから」と呼びかけました。



福島県平和フォーラムの永山信義さん

「安全神話」を押し付けたのは専門家の方々だが、未だにその反省も謝罪もない。日本は世界に例を見ないほどの経験をしている。広島、長崎のみならず、第五福竜丸、もんじゅ、他諸々、とどめは福島原発だ。絆を打ち壊したのは誰か」と、怒りの発言。



娘を連れて東京へ避難した、増子里香さん

原発以前は三春で、有機栽培の生産も軌道に乗り、自然に囲まれ充実した生活だった。自主避難なので被災証明がなく、都営住宅に申し込むことも、就職も難しく一般住宅を善意で貸してもらっている。ママネット@東京の活動をつづけている。



NPO法人福島県有機農業ネットワーク理事長の菅野正寿さんは原発から50km地点に住む。軌道に乗っていた地域資源循環型の有機農業が今回大きな打撃を受けた。風評被害にも苦しむ。



山本太郎さん

「電気は余っている。再稼働はさせない。この国を終わらせないためにもっと怒ろう。命がかかっているのだから。今日、ドイツの150の町で我々の運動と連帯してデモが行われるということだ。今日はドイツのジャーナリストも、アルジャジーラTVも取材に来ている。世界は日本を見ている。我々の行動をテンポアップしなければならない」



中学3年生のタレント、藤波心さん：

「いつの間にか54基にもなってしまった原発、これは時限爆弾だ。科学が発達したからと言って、人類がなんでもコントロールできると思うのは大間違い。私たちは原発によって支えられていたのではなく、何も知らない私たちが原発を支えていたのだと思う」



文責：鈴木真理子

**再稼働を許さない
さようなら原発1000万人アクション
3.24集会
日比谷公会堂 13時～**